

インフルエンザ等流行性症状への対応について

○インフルエンザ対応の指針

1. インフルエンザに感染・発症している場合は、大会への参加を禁止する。
2. インフルエンザを発症した選手は、症状が始まった日の翌日から5日目まで、また、熱が下がってから2日目までは外出しない。(感染防止)
3. 感染していない場合でも、学校閉鎖・学年閉鎖・学級閉鎖中の選手も大会への参加も禁止する。(自宅待機（登校自粛）により外出禁止となっているため)

○指針の根拠

※インフルエンザの潜伏期間は1～2日。

発症する1日前から発症後5～7日頃まで周りの人にうつしてしまう可能性があり、特に発症してから最初の3日間ほどが最も感染力が高い。

熱が下がっても、2日間は感染させる可能性があるため、治っても2日間は、外出を控える。

※平成21年(2009)年にインフルエンザ(H1N1)2009ウィルスが流行した時には、新型インフルエンザと言われていましたが、厚生労働省は、平成23(2011)年3月31日の時点において「新型インフルエンザ」と呼ばれていたインフルエンザ(H1N1)2009ウィルスについて、通常の季節性インフルエンザとして取り扱うこととし、対応も通常のインフルエンザ対策に移行しました。

○発生状況の確認

兵庫県感染症情報センター（インフルエンザ疾患の発生状況（学級閉鎖の状況）

各市町村のホームページで小学校名も記載している場合もあります。

新型コロナウィルス対策について

○現状

・JBA より公表された「JBA バスケットボール事業・活動実施ガイドライン第6版」は新型コロナウィルスの感染法上の位置づけが「第5類」へ引き下げられたのと同時に廃止されました。

しかし感染法上の位置づけ変更後も基本的な感染対策は必要です。

以下の内容をご確認いただき、引き続き注意しながらの活動をお願いします。

○基本的な感染対策の考え方

①マスクの着用

・個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることを基本とします。

※本人の意思に反してマスクの脱着を強いることがないよう、個人やチームの判断が尊重されるようにご配慮お願いします。

※レフリーマスクも同様に競技会として着用を求める場合以外は、個人の判断に委ねるものとします。

・高齢者等重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、着用が効果的な場面ではマスクの着用を推奨します。

※高齢者等重症化リスクの高い方は、換気の悪い場所や、不特定多数の人がいるような混雑した場所、近接した会話を避けることが感染防止対策として有効です。

②手洗い等の手指衛生、換気

・新型コロナウィルス感染症の特徴をふまえ、基本的感染対策として引き続き有効なため励行をお願いします。

○位置づけ変更後の感染対策の実施の考え方と陽性者・体調不良者の対応について

①競技会等における施設入場時の検温、入り口での消毒液の設置、またアクリル板、ビニールシート等のパーテーション(仕切り)の設置は原則撤廃といたします。

②陽性判定を受けた場合は、発症の翌日から5日間は外出を控え、症状が軽くなってから24時間程度は外出を控えてください。

その上で10日間が経過するまではウイルスを排出する可能性があることから、できるだけマスクを着用し、人混みは避け、高齢者等との接触は控えるようにしてください。

③以下いずれかの目安に該当する「体調不良者」は、競技会、練習・試合等への参加を見合わせてください。

ア) 息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある場合。

イ) 重症化しやすい方（高齢者や基礎疾患がある人）で、発熱やせきなどの比較的軽い風邪症状がある場合。

ウ) 比較的軽いかぜが続く

※体調不良者は発症から数えて2日、および症状消失後より数えて3日間は活動を休み、自宅療養することを推奨します。

○位置づけ変更後の新たな変異株出現等への対応

今後、感染の急拡大等で状況が変わった場合はその時のJBAの方針に従うこととします。

また、地域や会場のルールがある場合はそちらが優先されること、ご承知おきください。